（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	POCCOかみいしだ

公表日 2024年12月20日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	事業所の形が複雑なため、活動に合わせてスペースの確保をしたり、体育館を借りて使うなど工夫をしている。	限られたスペースの中でも、内容に合わせたスペースの確保を都度行っていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6	0	人員配置は適切であるようにシフトを確認している。	利用者数と配置人数の確認を行い、適切な配置人数で支援を行っていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	来所後荷物を置く場所、食事、宿題をする場所、自由に過ごす場所は分けるようにしている。	より分かりやすく場所の設定をしていく。玄関等、バリアフリーになっている箇所もあるが、子どもの状態によっては改善すべき点はある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	毎日の掃除、消毒、換気を行っている。清潔に過ごせるように、感染症対策も行っている。活動に合わせて少人数にしたり、テーブルの配置を変えたり空間を確保している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	こどもの様子によっては相談室をクールダウンする部屋として使用することもある。	相談室として機能するように事業所内を整理し、相談室以外でカーテンを仕切るなどして個別で過ごせる場所を確保する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	朝のミーティング、月1ミーティング等で振り返りや改善点を話し合い、職員間で共有し、分担している。	引き続き職員間での連携を図っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	昨年の評価表の結果を職員で共有し、改善できるように努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	月1ミーティング等の機会を作り、職員が意見を発信している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6	去年度は業務改善につなげるために、令和5年11月に第三者委員会を開催した。	今年度はまだ開催されていないが、開催した際には外部評価を行ってもらい、業務改善につなげていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	山内先生の研修や、外部講師を招いての研修会を定期的に行っている。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	作成し、公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	アセスメント、モニタリング会議、関係者会議に出席、保護者の意向を聞き、計画作成に反映している。また、本年度４月の法改正により個別支援計画の５領域化に伴いアセスメントをより細かく分析できるようになった。	保護者との面談をする機会を作っている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	ケース会議を行い、共通理解を図っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	6	0	個別支援計画に基づき、専門的支援実施計画書を作成し、個々の計画に沿った支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	アセスメントシートを更新をして使用している。毎年、SM社会生活能力検査等を実施し、支援に反映している。WISC等の検査結果をご家庭から共有していただき、支援に活かしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	個別支援計画に記載し、具体的な支援内容が設定されている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	毎月、翌月のプログラムを話し合っている。	職員だけではなく、パート職員も含めてより良いプログラムを作成できるよう努力する。

援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	日々新しい情報を取り入れ、活動の参考にしている。また、季節や地域行事を考慮した活動内容を取り入れている。	子どもたちからの意見を聞き、活動に反映させていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	子どもの発達、特性に合わせて個別活動や集団活動を計画、支援している。	個別活動の中で、専門職の職員に関わりを持ってもらう時間を増やしていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	朝のミーティング時、学校休業日等朝からの活動の際は前日までに計画を行い、内容を共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	6	0	活動終了時に振り返りを行っている。子どもたちの様子や課題などを共有し、今後の支援に繋げている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	当日の様子はHUGシステムを使って記録を行っている。保護者にも閲覧していただき日々の様子を伝えている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	職員と保護者で共有し、見直しの必要性があれば行っている。	保護者、学校との情報共有をし、見直し、検討をしていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6	0	様々な活動を用意し、支援を行っている。	地域活動の参加の機会を増やしていきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	活動を通して自分で決めることができるような環境を設定している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	事前に子どもの様子を職員、パート職員に聞き取り、まとめたものを会議に持参し、事業所での様子を伝えるようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	医療系に関しては連携が取れている。	その他関係機関との連携も深めていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	予定表をいただける学校からは毎月いただいたり、下校時間の変更があった際には連絡をいただくこともある。送迎時間に遅れてしまう時には事前に連絡をするようにしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	0	相談支援事業所からの情報をいただき活用している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	0	事例が少ないが、情報提供が必要な時には行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	4	2	利用者の紹介の連絡はいただいている。	研修情報はいただくので、参加できるようにしていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	交流はほぼないが、地域イベントがある際には参加している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2	甲府市の連絡会がある時には参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	送迎時や毎日の記録等で様子をお伝えしたり、ご家庭や学校での様子をお聞きしている。また、事業所でのイベントにご家族に参加していただく機会を作っている。	親子参加ができる機会をもう少し増やしていきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	必要に応じて個別相談会や講演会のお知らせをしている。	保護者の悩みや困りごとの把握、保護者支援力の向上に努めていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時等、変更があったときには丁寧にお伝えしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	活動前に内容を説明し、活動への見通しをもたせる配慮を行っている。その日の体調や気分で参加への意欲がもてない場合は本人と参加の可否を決めている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	6	0	確認していただく時間を設け、内容を把握してもらってから同意していただくようにしている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	1	必要に応じて関係者会議や面談を行い、保護者の悩みや要望を聞き取る機会をもっている。	引き続き、保護者からの相談を受けた際、その場で返答が難しい問題に関しては1度事業所内で話しをし返答できるようにしていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	0	親子で参加していただける活動の場を設けた。	親子参加できる行事を積極的に行っていく。また、曜日で参加できないご家庭もあるので曜日を固定せずに計画を立てる。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	送迎時や電話などを利用して、保護者からの苦情や要望に対応している。必要に応じて本部に報告し指示を仰ぐようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	HAGシステムを活用し、活動内容や行事等の連絡、羞恥に努めている。また、SNSを通じての情報発信も適宜行っている。	写真だけではなく、動画等を使用し活動の雰囲気をより伝えていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	個人情報開示について保護者との確認の下、取り扱いには留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	直接本人の耳に入れたくない情報については、保護者との確認の下、電話や書面などを介して行うよう配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	6	地域の公園に出向いて地域の子どもたちとの交流を図っていく。	地域交流が行えるような行事に参加をしたり、事業所内やPOCCOグループ内で実施するイベントでの招待をする等を検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	震災、火災、風水害等用途を分けた避難訓練を計画し実施している。また、外出する活動前には危険予知の時間を取り、安全な活動への意識を喚起している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	計画を立て、定期的に避難訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	利用契約時に保護者からの聞き取り等で、保険情報を把握し、職員間でも共有している。	個人ファイルを開かなければ、服薬・持病の有無が分からない状況なので一覧表を作る等し、すぐに確認ができるようにしていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	利用契約時に保護者からの聞き取り等で、保険情報を把握し、職員間でも共有している。	引き続き、検査結果を1年に1度提出してもらえるように依頼をしていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	3	安全管理に必要な研修や訓練で理解を深める。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	6	0	保護者との連絡を取れるようにしている。災害時を想定した避難訓練等の取り組みをしていることをお知らせしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	ヒヤリハットの事例があった場合には書類を作成し、ミーティング等で共有し、事故・再発防止に努めている。	引き続き意識的にヒヤリハットの事例をあげ、危険回避に繋げていくようにする。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	虐待防止の研修には全職員参加をし、適切な対応を心掛けている。	引き続き、研修に参加をし支援者が適切な対応を取れるようにしていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	身体拘束を行う可能性がある場合には、個別支援計画書に別途記載をし、保護者からの同意を得ている。また、やむを得ず身体拘束をした場合は、書類を作成し保護者への説明をしっかりと行うようにしている。	引き続き、研修に参加をし、適切な対応を見に付けていくと共に、保護者への十分な説明をしていく。